2023 年 4 月吉日

BIPROGY 研究会
東北支部会員 各位

BIPROGY 研究会
東北支部

2023 年度『東北支部研究活動』
メンバー募集のご案内

拝啓 日頃より BIPROGY 研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

BIPROGY 研究会では会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題や社会課題等を研究テーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず課題を克服すべく仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく、研究活動を行っています。

ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、異業種交流の場などの目的としてご活用ください。活動を通じて自社へ活動成果を持ち帰っていただけるよう、研究グループ毎に BIPROGY グループ社員によるアドバイザー制度を設け、運営メンバー、事務局もフォローさせていただきます。

5月以降の新型コロナウィルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に伴い、対面での活動を増やし、異業種交流での人脈、視野の拡大に活かしていただきたいと思います。
多数のご参加をお待ち申し上げております。

敬具

【2023 年度研究活動の目的】
・異業種交流（社外の年齢や経験、役職の枠を超えたメンバーとの交流）
・人材育成（課題解決、チームビルディング、ファシリテーション、プロジェクトマネジメント、
ドキュメンテーション、ファシリテーション、コミュニケーション能力の向上）
・業務外分野探求への挑戦（失敗を恐れずチャレンジできるプロジェクト）
・働き方改革による新しい活動形態への挑戦・活動成果の社外への発信
（発表会や Web 掲載を通して参加者・参加会社の知名度アップ）

「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要項

1. 参加資格

BIPROGY 研究会会員企業（会員企業の方であればどなたでも参加いただけます）
主体的に取り組む意欲のある方を募集いたします。

2. 研究テーマ

活動開始後にメンバー間で研究したいテーマを協議の上、決定いただきます。
テーマ案は「2023 年度研究活動　東北支部活動テーマ案」をご参照ください。

3. 参加費

■今年度研究活動費として、1 企業¥20,000 を申し受けます。
　＊参加人数にかかわらず 1 企業あたり¥20,000 です。
　＊参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。
■その他交通費・旅費等は、参加者の負担とさせていただきます。

4. グループの構成

■原則 5～7 名程度で1グループを構成しますが、お申込み状況によって判断いたします。
■構成メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」を互選することとします。
■活動には、BIPROGY グループより選出されたアドバイザーが参加し、研究活動を支援します。

5. 年間スケジュール

開催予定日	開催内容
5 月 24 日（水）	発足式&第 1 回会合予定
8 月下旬～9 月上旬頃	中間報告：リーダー、サブリーダー対象
1 月末　予定	活動報告書提出
2 月上旬～中旬　予定	東北支部発表会
3 月 8 日（金）	全国発表会

6. 活動期間と会合回数

■活動期間は本年 5 月から翌年2月末までとします。（※全国発表会を除く）
■期間中、原則月1～2 回の会合（半日）を持ちますが、詳細は別途グループ運営の中で決定します。
　＊参加者の方へ
　　業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありません。各メンバーの進行状況を考慮の上、無理のない計画で活動を進めてください。
　＊参加者の会社の方へ
　　参加者が活動しやすいよう、社内調整やバックアップにご協力いただきますようお願いいたします。
■テーマ選定にあたっては、テーマに関しての知見取得に時間を費やし、ストーリーを組み立てられなくならないようグループ内で工夫していただき、アドバイザーの助言を得ながら進めてください。

■発足式および第１回会合：

・日時：2023 年 5 月 24 日（水）の 15:00～17:30 を予定しております。

・会場：BIPROGY 株式会社　東北支店

※参加状況により、各メンバーのスケジュールを調整しご連絡いたします。

また、終了後に懇親会を予定しております。

■サマースクール：

各グループリーダー、サブリーダーを対象に８月下旬から９月上旬にグループの中間報告をしていただくサマースクールを開催予定です。

■活動報告書提出：

来年１月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。

＊研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、実用性・有効性、先進性・独創性・独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。

■発表会：

来年3月８日（金）に「研究活動成果発表会」として、グループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。

7. 活動運営について

■研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。

■会合方法は Web または対面のどちらでもお選びいただけます。状況によりグループ内でご判断ください。

対面会議の場合は、BIPROGY(株)東北支店及び参加メンバーの会社施設等を利用します。

■研究成果は、「研究活動発表会」や「全国カンファレンス」等で発表していただくことがあります。

■特に優れた成果には、「エッカート賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。

■ご報告いただいた研究活動成果（研究活動報告書、プレゼン資料その他発表資料を含む）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し著作者は、BIPROGY 研究会が情報発信する機関誌や Web サイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含む）を BIPROGY 研究会に無償で許諾するものとします。

8. 申込方法：5月18日（木）までに下記サイトにてお申込みください。

https://form.biprogy.com/public/seminar/view/25031

9. お問合せ先

BIPROGY 研究会東北支部事務局　清水・稲生

〒980-0811　仙台市青葉区一番町 4-1-25　JRE 東二番丁スクエア

E-mail: tohoku-box@biprogy.com　　TEL:022-706-2503

以上

2023年度研究活動　東北支部活動テーマ案

No	キーワード	募集対象組織	キーワード選定理由
1	デジタルツイン	ユーザー企業の 経営戦略・情報システム部門	センサーなどのIoT機器や5G等の通信環境の普及もあり、デジタルツインと言う言葉が出てきた頃とは環境が様変わりしてきています。リアルタイムな情報を基に「今後期待されるデジタルツイン」について、最新状況を元に改めて検討する良いタイミングと考えます。
2	Web3.0	全組織対象	GAFAが世界のビジネス基盤として揺るぎないものとされてましたが、Web3.0（ブロックチェーンを基盤）の発展とともビジネス基盤の変革も起きつつあります。メタバースやアバタービジネスの展開を想定しつビジネスへの活用方法を探る時期に来ているのでは。
3	Well-being	全組織対象	ダイバーシティが叫ばれ、誰もが安心して暮らせる世の中を作ることが求められている中、Well-beingにより個人、組織、そして社会が幸せを感じられる継続的な活動に繋げる為に具体的に何が出来るのかが問われてきています。 特に企業内でのエンゲージメント向上に繋がる具体的な施策が求められています。
4	アバター	全組織対象	ローソン×AVITA　アバター活用で協業開始！のニュースが去年9月に駆け巡りました。本件は単にコンビニのサービス変革だけではなく、全ての接待を伴うサービスにおいて検討する価値がある内容と考えます。そこに居なくても良いビジネスを如何に検討出来るか、色々なアイデアが浮かんできます。
5	スーパーアプリ	全組織対象	海外企業に立ち向かっていくには欠かせないと言われているスーパーアプリ。普及することで私たちの生活がどう変わっていくのかを考えると楽しくなってきます。便利な世の中、楽しい将来について検討する事で何かが持ち帰れるのでは。
6	エアモビリティ、 ドローン、 次世代無線ネットワーク	ユーザー企業の 情報システム部門 マーケテイング部門	これまでは地上での活動を中心に考えてきましたが、5Gやドローンなどの新たな技術の出現により「空間も新しいビジネス領域に」変わっていきます。この空間を利用した新たなビジネスの可能性について技術トレンドから未来像を調査し利用ニーズを膨らませる。
7	バーチャルオフィス、 仮想空間	ユーザー企業の 情報システム部門 マーケテイング部門	コロナ禍によりデジタル空間を利用した新たな働き方が促進されてきました。今後5Gやポスト5Gをはじめとした次世代移動通信がインフラが主流になりSociety5. 0 を目指した活動がますます活発化すると見込まれています。その中でもメタバースへの期待感から、バーチャルオフィスでの働き方にも注目が集まっており既にいくつかのシステムが提供されてきています。実務での適用について可能性を調査出来る時期になってきたかと。
8	メタバース	ユーザー企業の 情報システム部門 マーケテイング部門	メタバースが注目されていますが、どのような領域の課題解決に役立つか。メタバースを適用出来そうな領域のあたりをつけ、課題解決の可能性を探っていく。
9	クラウドアプリケーション	DX、IT企画、開発担当部門	オンプレミスからクラウド環境で（汎用的に構築されている）稼働する業務アプリケーションが様々に台頭しています。幾つもの組み合わせや利用方法があり、また商品の入れ替えも激しい中、自社構築ではなく汎用的な業務アプリケーションをどう組み合わせていくのかが重要になってきています。今後の業務アプリケーション開発方針を策定する時期にきているのではと考えます。
10	人財育成	経営、部長、人事	企業競争力をつける為にDX推進が叫ばれ、各社ともIT業務の内製化を急いでいます。しかしながらDXを推進出来るメンバーは限られており、新規採用メンバー育成に加え、既存IT要員のDX内製推進力・IT職転換・シニア社員の利活用など幅広い層でのDX人材育成が叫ばれています。DX人材のあるべき姿や育成の方向性、ジョブ型人事制度への対応等、先行企業をベンチマークする価値は非常に大きいかと。
11	ChatGPT	全組織対象	研究活動参加者アンケートの中で「どんなテーマがあったら参加したいですか。次年度にあったらよいテーマはありますか」の設問に最も回答が多かったキーワードであり、今話題のキーワードである為。
12	IoT、AI、BigData、RFID	ユーザー企業の情報システム部門 ＩＴ企業のＳＥ	データの力で経営と事業を強化する「データ駆動経営」の実現に向けた研究を行う。 製造業で抱える人材不足の課題を解決するためには、単調かつ反復作業の自動化や、入荷、出荷、在庫管理などの業務負荷軽減が望まれることから、IoT、 AI、 BigData、RFIDなどの技術の活用方法を研究するもの。
13	ERP(Enterprise Resources Planning)	ユーザー企業の情報システム部門 ＩＴ企業のＳＥ	IoT、 AI、 BigData、RFIDなどの活用により、業務がスムーズになることで、次のステップとして、これらを統合管理することによる、効率化が求められる。 各技術の理想的な組み合わせや、活用方法について研究するもの。
14	予知保全	ユーザー企業の情報システム部門 ＩＴ企業のＳＥ、製品管理部門、 品質管理部門	設備の異常は、生産性の低下を招き、社内外への影響が大きいことから、ビックデータやＡＩの活用により、設備の劣化状態の把握、予知を行い部品交換などの早期対応を行うことで、これらの影響を最小限のおさえることで、無駄の削減について研究するもの。